

## 研究課題：小児期発症 IgA 腎症における成人期の尿蛋白残存に影響する因子の検討

### 1. 研究の目的

小児期発症の IgA 腎症の腎予後は改善しており、本邦での 10 年腎生存率は 90~95%と報告されています。しかし、治療後も尿蛋白が残存し、成人期へ移行する症例も少なからず存在します。本研究では成人期まで観察し得た IgA 腎症の患者様において、診療録をもとに、尿蛋白が残存するリスク因子の検討をしました。今回の検討により、小児期発症 IgA 腎症の成人期へのリスク因子に基づいた、新たな治療戦略の形成に寄与できると考えています。

### 2. 研究の方法

2003 年 1 月から 2023 年 2 月までの間に当科で腎生検を実施し、IgA 腎症と診断した小児患者のうち、成人期（18 歳以上）まで観察しえた患者様を対象とします。最終観察時の尿蛋白残存（尿蛋白/Cr $\geq$ 0.2 g/gCr）に影響する因子を後方視的に比較検討します。診療録から、性別、年齢・身長・体重（実体重、身長からの標準体重）、家族歴、既往歴、血清クレアチニン値、血尿・蛋白尿の程度、治療内容、治療後の血尿・蛋白尿の推移などを調査します。

### 3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦 2025 年 3 月 31 日まで。

### 4. 研究に用いる資料・情報の種類

上記 2. に記載した条件に該当する患者様の中で、上記 2. のような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

### 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

### 6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター  
研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永周一郎  
研究分担者：腎臓科 医長 櫻谷浩志

研究分担者：腎臓科	医長	横田俊介
研究分担者：腎臓科	医員	坂口晴英
研究分担者：腎臓科	医員	青山周平
研究分担者：腎臓科	医員	齋藤佳奈子

#### 7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2024年12月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構  
埼玉県立小児医療センター  
医事担当（代表 048-601-2200）